

令和7年度 八王子市立第八小学校経営計画

1 目指す学校

八王子市の教育目標『あふれる元気・かがやく心・仲間とともに・はばたけ未来へ』を受け、第八小学校では、社会に開かれた教育課程の下、カリキュラムマネジメントを推進し、外部人材や地域環境を活用した家庭や地域と連携した教育活動、小中一貫教育の推進等、児童が生涯学習社会の礎を築く中で新たな価値を生み出す創造力等の獲得的要素と、人との関係性を築く中で得られる協調的要素を調和的・一体的に育む学校。

グローバル化や ICT・AI の進展が加速し、SDGs やカーボンニュートラル、感染症やウイルスへの対応、災害への備えなど、様々な課題への対応が求められる現代において、「知・徳・体」をバランスよく育てることとともに、互いを認め合い、影響を受けながら励まし合い、助け合いながら過ごしていく「共生」の態度を育てることを重点とする。

(1) 目指す児童像 (子どもの未来を拓く学校 根を張る 枝を伸ばす 花を咲かせる)

◎かしこく(知)	気付きを大切にした課題設定や主体的に課題克服への努力を続ける中で、基礎的・基本的な内容の習得を図る。他者とのかかわりの中で、自らの考えを広げたり深めたりしながら、新たな課題への挑戦を続ける児童。
○ゆたかに(徳)	すすんであいさつをし、言葉遣いに気をつけて人と触れ合う中で、人を思いやり、自分も人も大切にして自己有用感を抱く児童。誰もが気持ちよく過ごせるように、規則を尊重し、決まりやルールを守って行動する温かく、豊かな人間性にあふれた児童。
○たくましく(体)	自己の健康に気を配り、栄養のバランスのとれた食事や睡眠、運動など、規則正しい生活習慣作りに関心をもつとともに、自ら体力向上や健康な体作りに励む児童。
○みんなと生きる子(共生)	困っている人がいたら、すすんで手を差し伸べるなど、たくさんの人とのかかわりを通して、ともに支え、助け合い、協力することで解決策を見出したり、課題を解決したりする児童。

(2) 第八小・大和田小・高倉小・第一中9年間で育てたい児童・生徒像

○自らすすんで学ぶ児童・生徒 ○よさを生かし高め合う児童・生徒 ○自ら力を伸ばす児童・生徒

2 中期的目標と達成に向けた方策

(知)	◎かしこく	目標	正しい学習習慣の定着を図り、すすんで学ぼうとする児童のやる気を大切にしながら解決策を考え、課題の克服に向けて努力する中で、基礎・基本の内容の習得をめざす。自他の意見や考えの相違を比較・分類しながら話し合い、学びを広げる。
		方策	・主体的な学びを尊重した授業改善（児童の気付きを活かした学習のめあての設定、振り返り） ・意見を広げたり、深めたりする互いの意見交流（対話、ICT の活用） ・多様な機会や方法による繰り返し学習（ミライシード、各種調査結果の活用、放課後学習教室）
(徳)	○ゆたかに	目標	あいさつや人を気遣う言葉の使用など、いたわりの気持ちをもって他者と接し、いじめを許さない雰囲気をつくる。道徳科の授業を中心としながら、道徳的価値について自らの考えをもち、判断する力を高めるとともに、きまりやルールに即してより望ましい行動を選択する力を高める。
		方策	・日常生活における、あいさつや人を気遣う言葉遣いの積極的な使用、励行 ・年間計画に基づいた意図的・計画的な道徳科の授業の実施を通した道徳的な思考力・判断力の育成 ・いじめを生まない人間関係の醸成（言葉遣い、かかわり方、伝え方、話し合いによる解決） ・学校生活のきまりやルールに即した行動における「守らせる」から「守ろう」への意識の向上
(体)	○たくましく	目標	健康な生活を実現するために、基本的生活のリズムや規則正しい習慣の獲得。栄養や休養のバランスを意識し、自らのめあてに沿った運動を心がけ、すすんで体を鍛えようとする態度を育てる。
		方策	・日常的な運動習慣の確立（意図的な運動） ・自らの運動能力の把握とともに、めあてに基づいた運動の実施による体力向上 ・栄養や睡眠など休養の必要性への理解と実践を通して、健康で過ごすための生活リズムの定着 ・状況に応じた適切な感染症対策やアレルギーなどについての理解と行動
る子(共生)	○みんなと生き	目標	自主的な活動を中心とする豊富な体験活動を実施し、様々な人との関わりの中で、人と接する力を高めたり、感謝の気持ちを表す大切さを学んだりすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。
		方策	・小中一貫教育を念頭に置き、9年間を見通した関係づくりと様々な活動の模索 ・幼稚園や保育園との連携 ・自主的な活動を中心としたたてわり班活動、クラブ・委員会活動の実施 ・外部人材を活用した多様な教育活動におけるコミュニケーション能力の向上（礼儀、教わる大切さ） ・学校運営協議会、保護者と連携した教育活動の実施

3 今年度の取組目標と方策

(1)教育活動の目標と方策

◎かしこく(知)	目標	児童の気付きから広がる学びを大切にし、繰り返し学ぶ機会を設定することで、学習の土台となる基礎的・基本的な内容の確実な習得を目指す。また、自らの立場を明確にして他者との意見を交換する場を設定することで、自分と他者との考えを比べ、相違に気付けるようにする。
	方策	・基礎・基本の確実な取組（重点教科を「算数」とし、保護者の協力を得た学習ボランティアの実施ドリル学習、フラッシュカード、電子黒板の活用） ・八小学びのスタンダードに基づく学習習慣の獲得(聞く力の向上、「はい,たつ,です」、忘れ物ゼロ) ・ICT の活用（ミライシード、オクリンク、スライドの作成やプログラミングなど） ・児童の気付きを大切にした学び（既習事項や経験と結びつけた解決策の模索） ・自分の考えをもった上での対話的学習（話し合い、付箋を活用した自他の意見の相違の認識） ・多様な学びの機会の設定（モジュール学習、放課後学習教室、夏季休業中の学習教室、宿題） ・学習形態の工夫（個別、集団、少人数学習） ・学力調査の結果をもとに八小の学力向上の取組実施（計算、漢字、校内研究での主体的な学び）
○豊かに(徳)	目標	あいさつや言葉遣いなど、人が心地よく過ごすための言語習慣の習得を目指す。小中連携の中でいじめ撲滅への取り組みを実施し、日頃からいじめをしない、させない態度をの育成に努める。道徳科の授業を中心に道徳的な価値について考えさせるとともに、きまりを守って行動する態度を育てる。
	方策	・安全で快適に、仲良く過ごせる環境づくり（学校のきまりやルールを守った行動の定着） ・児童によるあいさつ運動の実施や人の気持ちを温かくする言葉の使用 ・いじめ対策（小中一貫グループによる話し合いを受けた取り組みの実施。見守りシート、児童アンケートの活用、日常的な観察、組織的な対応等） ・不登校対策（励まし、本人の負担にならない範囲の働きかけ、不安要素の軽減・解決、別室登校等） ・考えて学ぶ道徳授業の実施（道徳的価値への自分なりの考えの形成） ・家庭と連携した教育の推進（家育）を通しての生活リズムの定着（宿題等の家庭学習、持ち物）
○たくましく(体)	目標	たくさん体を動かし、のびのびと運動に取り組んだり、栄養のバランスの取れた食事や休養のあり方を考えたりする中で、望ましい生活習慣づくりについて関心をもち、健康な体づくりに励む態度を育てる。感染症やウイルス対応では、必要に応じた対策を講じながら、感染拡大防止に努める。
	方策	・体を動かす機会の設定（休み時間の外遊びの励行や活動時間を重視した体育の授業） ・体力向上のための年間を通した取組の実施（投げる運動、長縄・短縄、持久走など） ・栄養のバランスのとれた食生活（好き嫌いせずに食べる）、睡眠、休養 ・感染状況に応じた適切な対策の実施（手洗い、うがい、換気、必要に応じたマスクの着用） ・熱中症やアレルギーへの対応（WBGT の測定やこまめな水分補給、複数による確認）
る子(共生)	目標	様々な人と触れ合って学ぶ場を多く設定する。児童が活動内容について考え、計画を立てて実行したり、人から教わるよさを体感したり、感謝の気持ちを表す大切さを学んだりすることで、他者とコミュニケーションを図る力の素地を養う。また、人と協力することの心地よさを感じられるようにする。
	方策	・たてわり班活動、クラブ・委員会活動の実施（各学年のめあてに応じた参加、集団による活動作り） ・様々な外部人材を活用した活動の実施（児童が新鮮な気分で学べるような特別な機会の設定） ・小中一貫教育・幼稚園や保育園との連携 ・学校運営協議会委員との連携（行事や放課後・夏休み学習教室への参加などの日常的な関わり） ・保護者との連携（保護者と教職員の会と連携した行事、ボランティアによる読み聞かせ、家庭学習）

(2)重点目標と方策

令和7年度も継続して「かしこく」に重点を置き、基礎的・基本的事柄の確実な習得を目指した取組を行う。特に算数科では、保護者の協力を得て、学習ボランティアとして授業に参加していただき、個々の児童の状態に応じた学力の向上に取り組む。さらに、ねらいの設定や学習の振り返りなどを通して、受け身の学習から主体的な学習へと児童の意識の転換を図る。児童に豊かな言語環境を提供するため、俳句作りや図書ボランティアによる読み聞かせなど、言語の感性を刺激する環境づくりに努め、児童の知的好奇心の向上を図る。対話的な学習にも力点を置き、話し合い活動やタブレット端末の活用などを通して、自分と他者との意見の相違に気付かせ、比較、分類する力を高めるなど、協働的な学びを通して自らの考えを広げたり深めたりする経験を積ませていく。生活指導面では、話を聞く力を高める指導を重ねて行い、聞いてから動くことを児童に定着させる。チャイム着席や持ち物の用意、発言の仕方など望ましい学習習慣の定着は、本年度も「八小学びのスタンダード」を活用して行う。きまりを守る態度の育成するために、特に廊下歩行の仕方に力を入れて取り組む。あいさつは、「いつでも、どこでも、なんどでも」を心がけ、「すすんであいさつできる子」の育成に取り組む。また、「ありがとう」や「大丈夫」など、人と人をつなぐための言葉を積極的に使用することで、思いやりをもちながら人と接する態度を築けるようにする。

望ましい人間関係を構築し、人とのコミュニケーションを円滑に行うために、人を気遣い、思いやる言葉遣いの励行（ちくちく言葉ではなく、ふわふわ言葉の使用）、自分の思いだけでなく、相手の感情を受け止めたやり取りの実施など、具体的な場面の中で、望ましい行動がとれるようになることをめざした指導を行う。